

国際留学生 会館から

「留学生による外国語講座」 ～英会話を通じて深まる市民との絆～

شكرا جزيلاً
شكراً・ジャジーラン
ありがとうございます。
(アラビア語)

名古屋商科大学大学院マネジメント研究科
マネジメント専攻修士課程2年生
アディル エル ハッティさん(モロッコ出身)



国際留学生会館(以下「ISC」)では一般市民を対象に、春期と秋期の年2回「留学生による外国語講座」を開催しています。今回は今年5月から6月まで英語講師を務めたモロッコ出身のアディル エル ハッティさんに市民との交流や日本の印象などについてお話を伺いました。

私は2017年8月に来日し、現在の大学院で経営学を学んでいます。留学先に名古屋を選んだ理由は日本の自動車産業、特にその経営マネジメントに魅了されたからです。

ISCには昨年10月から在住し、今年の5月から6月にかけて、「留学生による外国語講座」で英語講師を務めました。私の母国語は英語ではありませんが、受講生の皆さんからは私の英語が聞きやすい、教え方が上手いなどのお褒めの言葉をいただきました。おそらく私自身がネイティブではなく、自らが努力し英語力を習得してきたプロセスをお伝えする



▲外国語講座の様子

ことによって、受講生の皆さんにより深くご理解いただけたのではないかと思います。受講生の英会話のレベルはかなり高く、かつ積極的でした。また皆さんの真摯に英語に向き合う姿には感銘を受けました。様々なコミュニケーションのなかで、講師と受講生の立場を越えた友情も芽生え、私自身も手ごたえを感じました。同時に日本人の礼儀正しさ、温かさを肌で感じることもできました。日本には「おもてなし」という相手を大切にす素晴らしい文化があります。実はモロッコの特徴のひとつとして、人をもてなし、寛大に接することを重んじる国民性があります。そういう意味では日本とモロッコは似ています。私はこの講座を通じて、日本人と日本文化の素晴らしさを再確認することができ、今後も多くの市民の方々と交流できることを楽しみにしています。



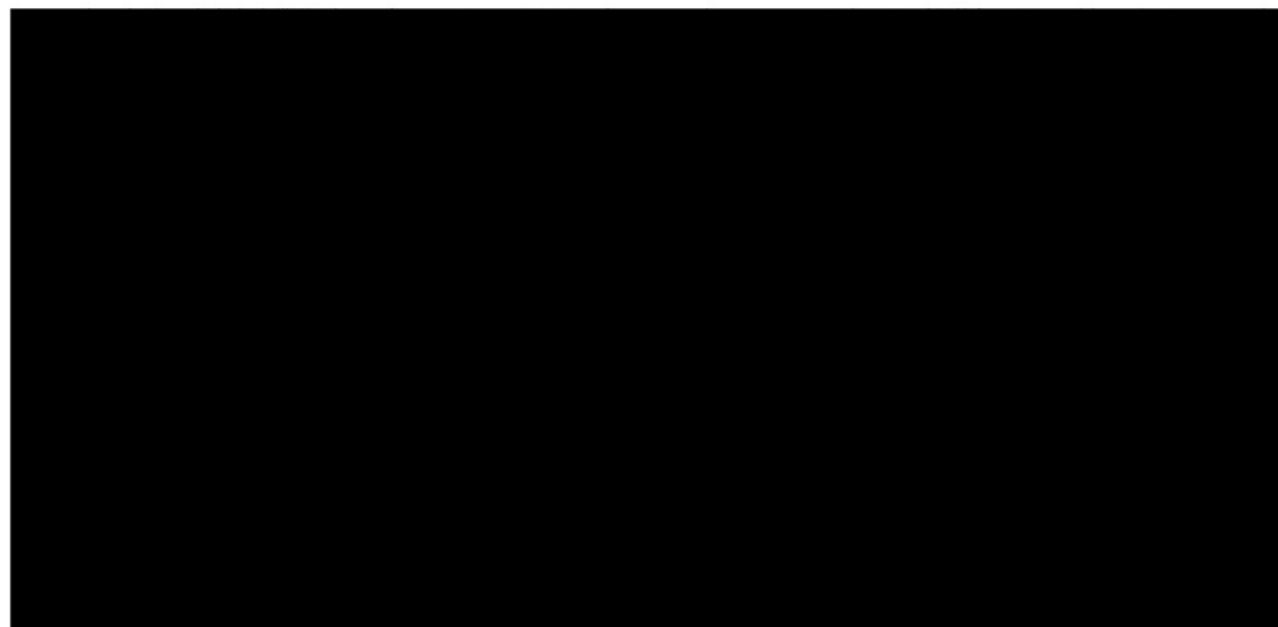
▲2018年秋期入居者歓迎パーティにて(左端がアディルさん)

国際留学生会館とは...

NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。



この地域で暮らす外国人にスポットを当てて、ご紹介するコーナーです。



途上国の現場で活躍する、地域の国際協力NPO/NGOリーダーにお話を伺います。



～国際協力・エチオピア編～

テーマ：水と衛生教育

現地の人たちが希望をもって、自立できるように!

特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構
開発オフィサー 松浦 史典さん



▲設置された水道で水を飲む子どもたち

リーダーズ・メッセージ
経験に勝るものはない、
行動あるのみ!



エチオピアでの自立支援に向けた活動を行っているホープ・インターナショナル開発機構。開発オフィサーを務める松浦さんは、小学生の時に飢餓で苦しむアフリカの子どもたちの映像を見たことがきっかけで、国際協力に関わりたいという気持ちが芽生えたそうです。

松浦さんはNGOスタッフを旨とする人向けのセミナーを受講し、同団体でインターンを経験した後、エチオピア駐在スタッフとして現地へ赴きました。頻りに停電や断水があり、初めは不安でしたが、現地の人たちからは逞しさも感じたそうです。



▲簡易水道の設置工事

同団体は現地の人々がきれいな水を近場で手に入れられるように簡易水道・タンクの設置を行っています。また、村落のグループや家庭での衛生教育活動も行っています。“きれいな水”を守るために「簡易水道の近くに家畜を近

づけない」など細かく説明しています。活動する中で、現地のスタッフと衝突することもありました。「一番の原因は働き方の認識の違い」と松浦さんは語ります。「日本人からすると効率が悪く、スケジュールがコロコロ変わることにいら立ちをよく感じました。でも今は自分たち(日本)のやり方を押しつけないようにしています。現地スタッフに主体性を持ってもらうためです。」

数年前からは現地の女性たちにマイクロクレジット(小規模融資)事業を通して簡単な貯蓄方法や商売の仕方を教え、将来を考えて生計を立てる指導をしています。

活動の透明性を保つため、日本で定期的に活動報告会を行い、市民や支援者にエチオピアでの課題が改善されるまでのストーリーを伝えていきます。

団体としての目標は現地の自立に向けた水と衛生の環境改善、松浦さん個人の目標は安定した活動を継続するための資金調達と、日本人とエチオピア人との協働を進めることだそうです。今後はSDGsに関心を寄せる企業と連携し、寄付つき商品の販売にもより一層取り組みたいと語ってくれました。

特定非営利活動法人 ホープ・インターナショナル開発機構
Web <https://www.hope.or.jp/>



名古屋市とトリノ市は2005年5月27日に姉妹都市提携を結び、来年15周年を迎えます。今回はトリノ市についてご紹介します。



名古屋の象徴「シャチ」と、トリノ市の市章に使われている雄牛をイメージしたキャラクターです。

トリノ市は、イタリア共和国の北西に位置するピエモンテ州の州都です。2006年に冬季オリンピックが開催され、フィギュアスケートの荒川静香選手が日本女子フィギュア界初の金メダルを獲得した場所です。トリノ市は、日本と同じように四季があり、人口はイタリアで4番目に多い大都市です。名古屋と同じく、自動車産業が盛んで、世界有数の自動車メーカー「フィアット」の本拠地でもあります。そのためか、車の交通量が多く、渋滞解消のため、昨年末に、地下鉄の第2ラインの建設計画が発表されました。



▲トリノの街並み



▲2006年トリノオリンピック

トリノ市を南北に走る全長約26kmで、現行の第1ラインとトリノ中央駅で交差します。新線には、トリノ大学やトリノ工科大学最寄りの駅が設置される予定で、学生の足としても利用が期待されます。

●名古屋姉妹友好都市協会 会員募集

名古屋市の姉妹友好都市(ロサンゼルス市・メキシコ市・南京市・シドニー市・トリノ市・ランス市)関連のイベント情報が届くほか、会員限定のイベントにもご参加いただけます。また、一般市民向けのイベントに会員料金でご参加いただけます。

個人会員 年額1口 3,000円
学生会員 年額1口 1,000円

詳しくは事務局までお問い合わせください。姉妹友好都市交流にご関心をお持ちの方々のご入会をお待ちしています!

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。

ぜひご覧ください。

Web <http://nsca.gr.jp/>

Facebook [nagoya.sistercities](https://www.facebook.com/nagoya.sistercities) 検索